

【 環境園芸学科 】

平成 29 年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果分析

アンケートの設問

学生の授業取り組みに関する質問

設問① 私はこの授業によく出席した

設問② 私は授業内容について質問や発言をした

設問③ 私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした） 教員の授業実施方法に関する質問

設問④ 教員の声は聞き取りやすかった

設問⑤ 教員の板書（または PPT・配付資料等）は読みやすかった（見やすかった）

設問⑥ 教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた

設問⑦ 教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた

設問⑧ 教員は熱意を持って授業をしていた 総合評価

設問⑨ 私はこの授業内容を理解できた

設問⑩ 私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役に立つと感じた

設問⑪ 私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた

表 1. 平成 29 年度前期の回答の集計

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値
	5	4	3	2	1		
①	692	233	110	17	3	1055	4.51
②	137	198	452	90	175	1052	3.03
③	251	346	346	64	43	1050	3.66
④	543	310	148	34	20	1055	4.25
⑤	505	299	170	51	29	1054	4.14
⑥	693	229	116	8	7	1053	4.51
⑦	527	307	177	27	15	1053	4.24
⑧	646	278	109	8	10	1051	4.47
⑨	388	417	204	32	12	1053	4.08
⑩	510	341	180	16	6	1053	4.27
⑪	483	345	185	26	15	1054	4.19

表 2. 平成 29 年度後期の回答の集計

設問番号	回答欄					回答数	平均値
	5	4	3	2	1	(人)	
①	460	176	93	16	0	745	4.45
②	134	153	311	89	57	744	3.29
③	191	231	251	48	23	744	3.70
④	384	228	103	23	6	744	4.29
⑤	367	223	118	29	8	745	4.22
⑥	491	180	66	6	1	744	4.55
⑦	415	214	98	13	5	745	4.37
⑧	462	206	71	5	0	744	4.51
⑨	275	301	141	21	6	744	4.10
⑩	344	268	114	12	6	744	4.25
⑪	333	270	121	15	4	743	4.23

1) 全体について昨年度と本年度の前期と後期をそれぞれ比較すると、前期については、設問⑥、⑦の2項目で、それぞれ 0.2 ポイントの減が見られ、設問⑧で変動なしであったが、それ以外の8項目においてはポイントが増加した。また、後期については、全ての項目においてポイントが増加した。また、このアンケートを開始した平成 22 年度からのデータの平均値と、今年度の前期後期の各平均値と比較した結果、すべての項目についてポイントが上昇していることから、長年の授業改善は緩やかながらも一定の効果を産み出していると考えられる。今後も、講義・実習・演習等の教育を実施する教員としては、これまでの各自で記載した授業改善報告書を踏まえ、授業改善に取り組みたい。

2) 各設問について

〔学生の授業取り組みに関する質問〕

設問①：前期後期ともに、平均値は 4.5 点前後である。回答「1、2、3」の学生が前期は約 12%、後期は約 14%程度存在することに注視し、学生の授業への取り組み姿勢の改善を図り、今後はこの値を下げるような取り組みが望まれる。

設問②：本設問に関しては、他の設問と比べ、例年ポイントが低い。少人数でのゼミとは異

なり受講生が多い講義では、「質問や発言がしづらい」、「時間がない」などもその要因として考えられるが、教員が質問の時間を設けなかったり、学生に質問を促さなかったりした可能性も考えられる。講義終了後に質問される場合も多くみられることから、講義終了後の質問についても設問に記載しても良いと考える。

設問③：前期は 3.66 点、後期は 3.70 点であり、前期後期とも平成 22 年度以降では最も高いポイントであった。しかしながら、本設問については設問②に次いで低評価であり、回答「3」の「どちらともいえない」を含めると約 43%半数前後の学生が積極的に取り組んでいないと回答している。各科目の位置づけを第 1 回目の授業や分野ならびに専攻説明会などを通じて明確にし、特色に合わせて自発的な参加意欲を高めるような具体的方策が望まれる。

〔教員の授業実施方法に関する質問〕

設問④：前期後期ともに概ね高い評価であった。そして前期後期とも、教員の声が聞き取り難いとの低評価の回答「1、2」は、5%程度の結果となった。これは長年の取組みにより、マイクの使用や教室の変更などの各教員の対応により改善が図られたものと考えられる。今後も各授業において、学生に声が聞こえているかを確認することにより、より改善がなされるものとする。

設問⑤：前期後期ともに比較的高評価であった。しかし、これまでに引き続き、前後期ともに、5~8%が回答「1、2」と教員の板書等は見づらいとある。今後も、さらなるプレゼンテーション方法や質の工夫など、各教員の対応で改善が必要と考える。

設問⑥：前期後期ともに例年通り比較的高い評価であった。教員が授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていなかったとする低評価の回答「1、2」は、1%程度の結果となった。授業時間については、比較的厳守されていると判断できるが、今後もさらなる継続が望まれる。

設問⑦：前期後期ともに高評価であった。不満を抱いている学生は少なく、概ね良好であると考えられる。前期には、教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていないとする低評価の回答「1」は、1%程度存在したが、後期には 0%となった。今後も現在の状況を維持しつつも、授業中、学生に意見を聞いたり、問いかけをしたりするなど学生の理解度や意見を吸い上げるさらなる取り組みや工夫が望まれる。

設問⑧：前期後期ともに概ね高評価であり、各教員が熱意を持って授業に取り組んでいると判断される。今後もさらなる継続が望まれる。

〔総合評価〕

設問⑨：前期は 4.08 点、後期は 4.10 点であり、前期後期とも平成 22 年度以降では最も高いポイントであった。授業を非常によく理解できたとする回答「5」は全体の 37%前後であり、回答「4」の多少理解できたと回答している 40%前後の学生よりも少ないのが現状であるが、昨年度と比べると回答「5」の割合が増加してきている。しかしながら、依然として多くの学生が自信をもってよく理解できたとはいえない状況にある。このことは、設問②および③の結果と合わせて考えると、学生の取り組み姿勢といった根本的な課題とも考えられる。今後の継続的な分析と取り組みが望まれる。

設問⑩：前期は 4.27 点、後期は 4.25 点であり、前期後期とも平成 22 年度以降では最も高

いポイントであった。ただし回答「1、2」を合わせると、約 2% の学生に将来役に立つと認識されていないことから、科目の意義や位置づけ、特色の理解を深めるとともに、授業内容に関する実践的な内容も授業に取り込み、将来における職業意識を高める工夫などが望まれる。

設問⑩：前期は 4.19 点、後期は 4.23 点であり、前期後期とも平成 22 年度以降では最も高いポイントであった。回答「5」と特に満足感を得られていると回答した学生の割合は、約 45%であり、「4、5」を含めると 80%前後と概ね良好であると考えられる。一方で、20%前後の学生は回答「1、2、3」と満足であったとは答えていない。この評価は他の全設問を通した総合的な評価であり、多くの学生において絶対的な満足感が得られているわけではない。

これまでの授業評価結果をもとに各教員は各設問項目を中心に改善の努力を行っており、各項目における年次の増減は多少あるものの、着実に成果があらわれてきている。今後は、特に学生自信の授業に対する積極的な取り組み（設問②および設問③）を向上させることが総合評価の改善に結びつくと考えられる。引き続き、各教員および学科の地道な改善努力の継続が重要であると考えられる。

【 管理栄養学科 】

平成 29 年度前期 授業評価アンケート 集計結果分析

管理栄養学科については、昨年の授業評価アンケートの結果と比較しながら、反省点を分析した。

(アンケート集計結果(平均値):()内は平成 28 年度前期結果)

設問 1) 私はこの授業によく出席した	4.83 (4.80)
設問 2) 私は授業内容について質問や発言をした	3.29 (3.05)
設問 3) 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)	3.91 (3.65)
設問 4) 教員の声は聞き取りやすかった	4.41 (4.48)
設問 5) 教員の板書(又は PPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)	4.29 (4.35)
設問 6) 教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	4.71 (4.65)
設問 7) 教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	4.38 (4.35)
設問 8) 教員は熱意を持って授業をしていた	4.53 (4.52)
設問 9) 私はこの授業内容を理解できた	4.12 (4.01)
設問 10) 私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役立つと感じた	4.52 (4.54)
設問 11) 私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	4.32 (4.28)

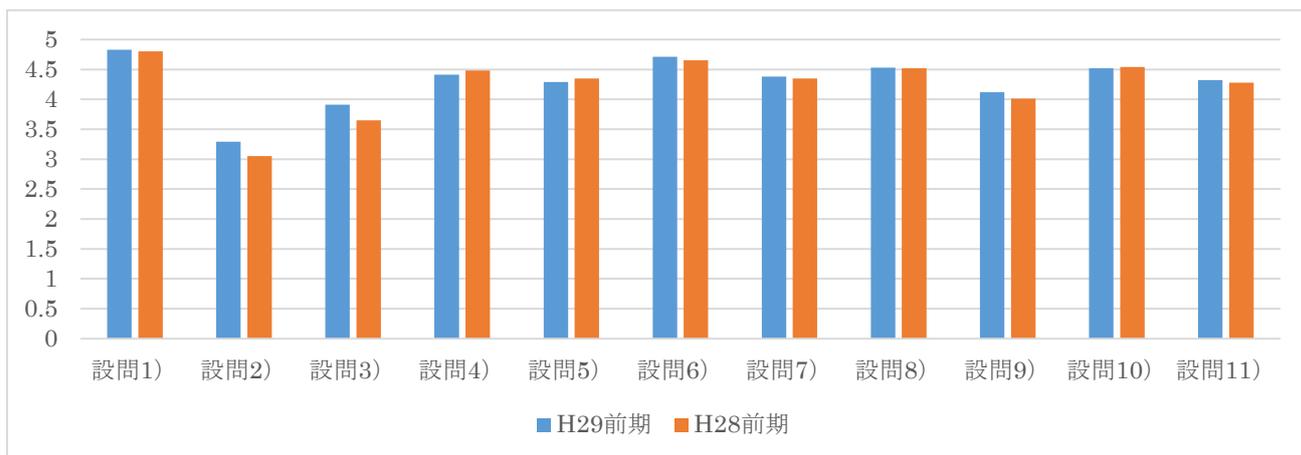


図 1. 前期授業評価アンケート 集計結果 (H29,28 年度比較)

- ・ 管理栄養学科では前期においては平成 25 年度から今年度 (平成 29 年度) まで、設問 2)、設問 3) の項目を除いてすべての項目で 4.00 ポイント以上という高い評価が得られている。
- ・ 今回のアンケートの平均値としては、前回のアンケート集計結果 (平成 28 年度前期) と比較して、設問 4) 5) 10) を除いたすべての項目でポイントの上昇がみられ、教員の授業に対する積極的な取り組みを学生が支持した結果といえよう。
- ・ 特に設問 3) の項目については、平成 25 年度から今年度 (平成 29 年度) まで、4.00 ポイント以下の数値であるが、今年度は前年度より、0.26 ポイント上昇し、4.00 ポイントに近い数値となった。それぞれの教員が予習テストや復習テストを取り入れるなどして、学生が授業時間以外にも積極的に学習に取り組むための工夫を行ったものと思われる。
- ・ 設問 4)、5)、10) では $-0.02 \sim -0.07$ ポイントの範囲でわずかながら平均値が低下した。この中で、設問 4)、5) に関しては、4.00 ポイント以上と高い評価は得られているものの、それぞれの教員がこのことを常に意識をして積極的に取り組むことでさらなる改善に繋がってほしい。
 設問 10) に関しては、昨年度を振り返ると、設問 9) の理解度の低下が専門職として働くことのイメージに繋がりにくく設問 10) の将来に役立つかという設問の低下に繋がったのではないかと分析したが、今回設問 9) ではポイントの上昇がみられたにもかかわらず、設問 10) ではわずかに 0.02 ポイントであるが低下がみられた。この要因として、授業評価のアンケートを行う対象者の学年にもよるのではないかと考える。特に 1 年生では将来性としてとらえにくいのではないかとと思われる。
- ・ 上記はわずかな低下とはいえ、この結果を踏まえ、設問 4) 5) については各教員が個々人で取り組み、設問 10) に対しては授業の中で、学びが将来どのようなことに活かされるのかなど情報提

供しながら、授業をしていく必要があると考える。

- ・ 学科全体で反省点をまとめると、ほとんどの項目で 4.00 ポイント以上という高い評価が得られており、おおむね良好な結果が得られた。特に、前年度と比較して、教員の授業に対する改善のための積極的な取り組みを学生が支持していると思われる項目もあり、授業評価アンケートの結果が活かされていると思われる。

ただし、設問によっては、引き続き低下傾向のみられる項目も認められることから、本学科教員一人ひとりが自分自身の科目での結果を振り返り、反省点をしっかり意識した授業を行うことが大変重要である。

平成 29 年度後期 授業評価アンケート 集計結果分析

管理栄養学科については、昨年の授業評価アンケートの結果と比較しながら反省点を分析した。

(アンケート集計結果(平均値):()内は平成 28 年度後期結果)

設問 1) 私はこの授業によく出席した	4.81 (4.76)
設問 2) 私は授業内容について質問や発言をした	3.18 (3.23)
設問 3) 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)	3.84 (3.78)
設問 4) 教員の声は聞き取りやすかった	4.50 (4.59)
設問 5) 教員の板書(または PPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)	4.29 (4.44)
設問 6) 教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	4.71 (4.66)
設問 7) 教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	4.36 (4.44)
設問 8) 教員は熱意を持って授業をしていた	4.59 (4.61)
設問 9) 私はこの授業内容を理解できた	4.14 (4.22)
設問 10) 私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役立つと感じた	4.62 (4.65)
設問 11) 私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	4.35 (4.44)



図 2. 後期授業評価アンケート 集計結果(H29,28 年度比較)

- ・ 管理栄養学科では後期においても平成 25 年度から今年度(平成 29 年度)まで、設問 2)、設問 3)の項目を除いてすべての項目で 4.00 ポイント以上という高い評価が得られている。
- ・ 今回のアンケートの平均値としては、前回のアンケート集計結果(平成 28 年度後期)と比較して、設問 1)、3)、6)の項目で 0.05~0.06 ポイントの範囲でわずかながらポイントが上昇した。その他の設問項目では、-0.02~-0.15 ポイントの範囲でわずかながら、平均値が低下した。特に前回ポイントが上昇した項目のうち、今回ポイントが低下した項目、設問 2)、4)、5)、8)、9)、11)については、各教員がこの結果を受けとめ、授業の改善に取り組む必要がある。
- ・ 今回は前回までに改善のみられていた「設問 4)教員の声は聞き取りやすかった」および「設問 5)教員の板書(または PPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)」という項目でそれぞれ 0.05、0.15 ポイントとわずかではあるがポイントの低下がみられた。この結果として、「設問 9)私はこの授業内容を理解できた」における 0.08 ポイントの低下につながったことが考えられる。いずれの項目も平均値としては、4.00 ポイント以上という高い評価であるが、授業評価アンケートの結果を受けとめ、個々の教員が改善へ向けてさらなる工夫の必要がある。
- ・ また、平成 27 年度にポイントの低下がみられた「設問 3)私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)」については、平成 28 年から引き続きさらに 0.06 ポイント上昇し、個々の教員が改善へ向けて工夫をし、学生の積極性を引き出す取り組みを行っていることがうかがえる。
- ・ 前回特に低下がみられた項目は、「設問 6)教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた」であったが、今回は 0.05 ポイントの上昇がみられた。特に午前中の授業に遅れてくる学生の影響で授業時間に影響がある場合の学生への指導など、各教員が授業時間を守ろうと配慮したこ

ともポイントの上昇につながったと思われる。

- ・ 学科全体で反省点をまとめると、後期においては項目によりポイントの低下がみられるが、改善した項目、改善が維持されている項目もあり、おおむね良好な結果が得られ、授業評価アンケートの結果が授業に生かされていると思われる。評価値のわずかな低下がみられた項目に対しては、本学科教員一人ひとりが自分自身の科目での結果を振り返り、反省点をしっかり意識した授業を行うことが大変重要である。とくに設問2)3)の学生の積極性に関する点数が、引き続き3ポイント台と他の項目より低いため、座学においてアクティブ・ラーニングや調べ学習、発表など、学生が授業に積極的に参加できる工夫や環境づくりなどの対策が必要であると考えられる。次年度に向けても、この2項目の改善(4ポイント台になるよう)にさらに教員一同取り組むことで、より高い質の授業が期待されるのではないかと考える。

*【アクティブ・ラーニング】(文部科学省 用語集より)

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【食品開発科学科】

平成 29 年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果分析

1. 平成 29 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
山下博	食品の官能評価・鑑別論	3	28
寺原典彦	有機化学総論	1	41
外山英男	フードスペシャリスト論	2	19
紺谷靖英	微生物学	1	43
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2	30
岡崎善三	食品開発科学概論	1	39
矢野原泰士	パン・菓子製造学	2	15
		合計	215

(参考) 平成 28 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	醸造学	2	33
山下 博	食商品学	3	32
工藤哲三	食品加工学	1	34
寺原典彦	有機化学総論	1	21
外山英男	生物学 I	1	82
紺谷靖英	微生物学	1	31
長友泰潤	宗教学	1	45
中瀬昌之	生物化学 I	1	28
		合計	306

2. 平成 29 年度前期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値	
	5	4	3	2	1			
①	141	47	18	9	0	215	4.49	
②	13	40	93	39	29	214	2.86	未回答 1
③	22	53	97	31	12	215	3.20	
④	81	74	42	17	1	215	4.01	
⑤	69	75	57	12	2	215	3.92	
⑥	139	55	21	0	0	215	4.55	
⑦	72	91	43	6	2	214	4.05	未回答 1
⑧	96	79	34	4	1	214	4.24	未回答 1
⑨	32	106	62	12	3	215	3.71	
⑩	70	83	51	8	3	215	3.97	
⑪	52	98	53	8	4	215	3.87	

(参考) 平成 28 年度前期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値	
	5	4	3	2	1			
①	187	47	19	3	1	257	4.62	
②	27	45	99	37	49	257	2.86	
③	39	57	111	40	9	256	3.30	未回答 1
④	92	76	55	28	6	257	3.86	
⑤	87	75	54	25	15	256	3.76	未回答 1
⑥	154	63	34	4	1	256	4.43	未回答 1
⑦	73	75	71	22	14	255	3.67	未回答 1
⑧	95	70	74	12	6	257	3.92	
⑨	36	89	93	28	11	257	3.43	
⑩	60	86	88	16	7	257	3.68	
⑪	58	84	82	24	9	257	3.61	

各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。

昨年と同程度であった。今後も引き続き、学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心に対応していく。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。

昨年と同様に、あまり質問や発言には積極的ではないという結果が得られた。そこで、各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けて更なる努力が必要である。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）。

回答番号 3 以下の否定的な学生が多数いることに対して早急に対策を講じるべきである。また、大半の学生にさらに自学自習の習慣を定着させる必要がある。

設問 4・5・6・7・8 は教員の授業実施方法に関する質問である。

平均値が 3.71－4.55 と前年よりも上昇した。概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、従来の平均値よりも高い値を示している。特に、7・8 は、前回より改善がなされていた。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。

平均値が 3.71 と前年より上昇した。今後も、学生の理解度を増すための教員側の努力の継続が必要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。

平均値が 3.97 となり前年より上昇し、前回より改善がなされていた。今後も、学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容の更なる改善を継続していくことが必要である。

設問 11. 満足度

平均値が 3.87 で前年より上昇した。引き続き、授業内容の改善を継続していくことが必要である。

平成 29 年度後期 授業評価アンケート 集計結果分析

1. 平成 29 年度後期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
山下博	食品流通・消費論	2	25
寺原典彦	食品分析学	1	38
外山英男	生物学Ⅱ	1	10
紺谷靖英	栄養学Ⅱ	3	37
中瀬昌之	健康食品概論	2	25
岡崎善三	食品製造学	2	23
矢野原泰士	ニュートリゲノミクス	3	28
		合計	186

(参考) 平成 28 年度後期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
紺谷靖英	栄養学 II	3	14
中瀬昌之	健康食品概論	2	27
寺原典彦	食品分析学	1	29
柏田雅徳	食品製造学	2	30
山下 博	食品流通・消費論	2	27
外山英男	生物学 II	1	16
工藤哲三	パン・菓子製造学	1	12
		合計	155

2. 平成 29 年度後期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値	
	5	4	3	2	1			
①	107	53	19	6	1	186	4.39	
②	27	36	67	31	24	185	3.06	未回答 1
③	16	53	84	21	11	185	3.23	未回答 1
④	70	63	37	10	6	186	3.97	
⑤	75	65	31	14	1	186	4.07	
⑥	116	45	22	0	2	185	4.48	未回答 1
⑦	74	65	36	8	2	185	4.09	未回答 1
⑧	78	65	30	8	5	186	4.09	
⑨	38	76	57	10	5	186	3.71	
⑩	58	74	45	6	3	186	3.96	
⑪	54	73	48	5	6	186	3.88	

(参考) 平成 28 年度後期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値
	5	4	3	2	1		
①	98	43	11	1	2	155	4.51
②	17	26	77	21	14	155	3.07
③	18	37	73	19	8	155	3.25
④	64	51	33	7	9	155	4.11
⑤	61	52	31	9	2	155	4.04
⑥	91	46	17	1	0	155	4.46
⑦	66	49	37	2	1	155	4.14
⑧	75	53	22	3	1	154	4.29
⑨	35	70	43	5	1	154	3.86
⑩	48	64	41	2	0	155	4.02
⑪	37	66	46	4	2	155	3.85

未回答 1

未回答 1

各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。

平均値 4.39 で前年とほぼ同様で良好である。一方、回答番号 3 以下の割合が約 14%存在し、前年度よりも僅かに上昇した。引き続き学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心とした対応を継続していく必要がある。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。

平均値 3.06 で、前年度とほぼ同じで、設問中最も低い。各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けてさらなる改善・工夫を継続していく必要がある。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）。

平均値が 3.23 で、前年度とほぼ同じであった。回答番号 2 以下の割合が約 3 割を占めていた。学生に自学自習の習慣を身に付けさせるための更なる工夫が必要である。

設問 4・5・6・7・8 は教員の授業実施方法に関する質問である。

平均値が 3.97－4.48 と概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、これまでの傾向とほぼ同様である。今後も、さらなる改善を継続していくべきと思われる。また、学年による学生の気質の変化も考慮していく必要がある。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。

平均値が 3.71 となり、前年度とほぼ同じであった。回答番号 3 以下の回答が 3 割を超え、授業科目によっては学生にとって理解が困難であることがうかがえる。よって、学生の理解度を増すための教員側の努力と工夫を継続していくことが必要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。

平均値 3.96 であり、前年度とほぼ同じであった。学科で設定している科目群及び授業内容と学生の将来像が結び付くように提供する科目や授業内容をさらに改善していく必要がある。

設問 11. 満足度

平均値が 3.88 で、これも前年度とほぼ同じであった。この結果は、授業の早急な改善が必要であることを意味している。さらに、3 を回答した学生もかなりいるので、学生の満足度が上がるように更なる努力と工夫を継続することが必要である。1 と 2 と回答した学生が 9 人もいるが、この点については、今後詳しく調査する必要がある。見落としている課題が隠れている可能性がある。

【 子ども教育学科 】

(1) 学生授業評価アンケート実施と授業改善の取り組み

□アンケート集計結果

【前期：実施教員 15 名 回答数 674 名】(授業ごとの複数回答)

【後期：実施教員 14 名 回答数 569 名】(授業ごとの複数回答)

表1 全項目 (①～⑪) 平均値の年度別・前後期データ

(数字は、回答の平均値)

設問 番号	質 問 内 容	2017 前期	2017 後期	2016 前期	2016 後期
学生の授業取り組みに関する質問					
①	私はこの授業によく出席した	4.68	4.63	4.72	4.68
②	私は授業内容について質問や発言をした	3.37	3.26	3.30	3.08
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)	3.87	3.81	3.82	3.62
教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	4.37	4.47	4.38	4.35
⑤	教員の板書(またはPPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)	4.30	4.19	4.23	4.15
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	4.56	4.71	4.56	4.54
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	4.39	4.49	4.31	4.26
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	4.53	4.63	4.48	4.45
総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	4.13	4.23	4.19	4.03
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役に立つと感じた	4.41	4.48	4.38	4.32
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	4.28	4.38	4.27	4.18

表2 各項目の「特にそう思う」「多少そう思う」の占める割合（％）

（小数点以下は四捨五入により算出）

設問 番号	質 問 内 容	2017 前期	2017 後期	2016 前期	2016 後期
学生の授業取り組みに関する質問					
①	私はこの授業によく出席した	94	92	96	94
②	私は授業内容について質問や発言をした	43	36	41	36
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ （予習や復習をした）	65	62	63	54
教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	84	88	83	83
⑤	教員の板書（またはPPT・配布資料等） は読みやすかった（見やすかった）	82	78	79	75
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろう としていた	89	94	89	89
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を 進めていた	85	87	81	78
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	91	92	87	85
総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	80	82	80	74
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかの かたちで将来役に立つと感じた	87	88	85	83
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が 得られた	84	86	82	77

□アンケート結果の分析

【全体的分析】

表1に示すように、今年度における学科教員の平均値が4ポイント以上の項目は、全11項目中、前期で9項目、後期も9項目と、全体としての授業評価は良好であり、前年度と比較しても同様の結果となった。

次に、表2に示す「特にそう思う」、「多少そう思う」の占める割合についてみてみると、80%台以上の項目は、前期で9項目、後期は8項目あり、同様に良好ととらえることができ、前年度と比較すると前期で1項目、後期でも3項目増加している。

以上のように、表1及び表2の結果を前年度と比較すると、教員に対する授業評価は、前年度に比べて相対的に高くなっている。前年度の反省事項を受けて、教員各自が授業改善に当たってきた成果が示された結果ともいえる。

また、各項目の中でも「学生の授業取り組みに関する質問」である、項目②「質問や発言」及び項目③「予習や復習」は、前年度に比べて平均値や割合が高くなってきているが、他項目に比べると極端に低いため、まだ満足のいく結果とはなっていない。

このため、我が国が進める大学教育の改革の一つとして、教育方法の質的転換でもある「アクティブ・ラーニング」(学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習方法)の実施が提起されているように、今後は学生と教員が双方向に向き合い、かつ学生が能動的に参加し、参加したくなる授業展開の在り方を工夫していく必要があるように思われる。

以下は、昨年度と本年度における、前期、後期それぞれについての概括的な分析である。

【前期について】

○表1から見えてくること

前年度前期と比較して、全11項目のうち平均値が高くなっているのは7項目もあった。前年度の改善事項の課題を踏まえて、各教員が授業改善に取り組んだ成果が数値として表れた結果であるといえる。

○表2から見えてくること

前年度前期と比較して、全11項目のうち割合が高くなった項目は8項目で、1項目が低くなっているが、他の2項目が同じ値であった。その中でも、項目⑦「教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた」、項目⑧「教員は熱意を持って授業をしていた」は、それぞれ4%高くなっている。これも、表1と同様に、本年度に向けた授業改善の成果といえる。

【後期について】

○表1から見えてくること

前年度後期と比較して、10項目の平均値が高くなった。その中でも、一番高くなった項目が⑦「教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた」あり、0.23ポイントも増加している。前年度の改善事項の課題を踏まえて、各教員が授業改善に取り組んだ成果が数値として表れた結果であるといえる。

○表2から見えてくること

前年度後期と比較して、全11項目の割合が高くなった項目は9項目で、低くなったのは1項目だけであり、もう1項目は同じであったため、全体的に良好な結果であるといえる。その中でも、総合的評価に当たる項目⑩「私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた」が一番高く9%も上昇した。このため、これからの課題に対する授業改善の取り組み次第では、さらなる増加が

見込めるだけに、各教員の一層の努力が必要であるといえる。

【教養・教職センター】

平成 29 年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果分析

授業評価アンケートの 11 つの設問は 3 つの分野に分れている。設問 1 から 3 は「学生の授業取り組みに関する質問」、4 から 8 は「教員の授業実施方法に関する質問」、9 から 11 は「総合的評価」、関連の設問です。

設問情報

種略	問略	問文
学生取組	出席	私はこの授業によく出席した
学生取組	発言	私は授業内容について質問や発言した
学生取組	取組	私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習と復習した）
教員実施	聞取	教員の声は聞き取りやすかった。
教員実施	資料	教員の板書（または PPT・配布資料など）は読みやすかった（見やすかった）
教員実施	時刻	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた
教員実施	反応	教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた
教員実施	熱意	教員は熱意を持って授業をしていた
総合評価	理解	私はこの授業内容を理解できた
総合評価	役立	私はこの授業で学んだ内容はなんらかの形で将来的に役立つと感じた
総合評価	満足	私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた

種略	種文
学生取組	学生の授業取り組みに関する質問
教員実施	教員の授業実施方法に関する質問
総合評価	総合的評価に関する質問

回答

答種	L	答略	答文
SO	5	特に	特にそう思う
SO	4	多少	多少そう思う
DO	3	どちらも	どちらともいえない
NO	2	あまり	あまりそう思わない
NO	1	全く	全くそう思わない

アンケートの人数と実施

教員人数と回収枚数

体	年	期	員	枚
大学	2017	1	61	3154
教養	2017	1	8	473
大学	2017	2	67	2812
教養	2017	2	7	376

アンケート実施の教員、講義、枚数

2017(H29)前期の教員と講義

教員	科目	枚
長谷川二郎	生物学の基礎	99
スモール	英語コミュニケーション I	103
章大寧	農業政策論	41
西村盛正	体育実技(男子)	36

教員	科目	枚
長友泰潤	宗教学	48
植村秀人	教職概論	110
岩田賢士	中等教科教育法・農業	29
秋山 繁治	中等教科教育法・理科 I	7

2017(H29)後期の教員と講義

教員	科目	枚
長谷川二郎	生物の世界	63
植村秀人	キャリア入門	106
長友泰潤	哲学	63
西村盛正	体育実技	32
岩田賢士	特別活動論	34
スモール	英語コミュニケーション I	68
秋山繁治	中等教科教育法・理科 I	6

アンケートの結果

前期

大学の結果

特に	多少	どちらも	あまり	全く
5	4	3	2	1
2342	549	218	36	6
490	662	1277	282	437
828	1010	992	203	113
1683	852	437	121	57
1504	894	530	156	67

特に	多少	どちらも	あまり	全く
2178	608	280	48	34
1671	851	476	99	52
1909	826	340	44	26
1127	1248	596	123	54
1647	915	477	68	39
1430	1034	532	93	58

学科（センター）の結果

5	4	3	2	1
359	79	27	4	1
80	97	150	50	95
95	143	168	38	28
212	128	88	27	18
155	151	113	42	12
280	102	59	19	13
210	135	91	23	13
235	142	73	13	9
138	177	114	25	16
171	159	103	20	15
151	165	116	24	14

後期

大学の結果

5	4	3	2	1
2041	518	206	41	5
471	577	1140	345	273
736	851	915	214	89
1536	752	371	106	45
1384	750	468	140	67
1976	568	232	21	11
1538	740	401	84	44
1746	713	286	40	20
1095	1075	516	85	32
1503	818	407	48	31
1337	899	473	62	35

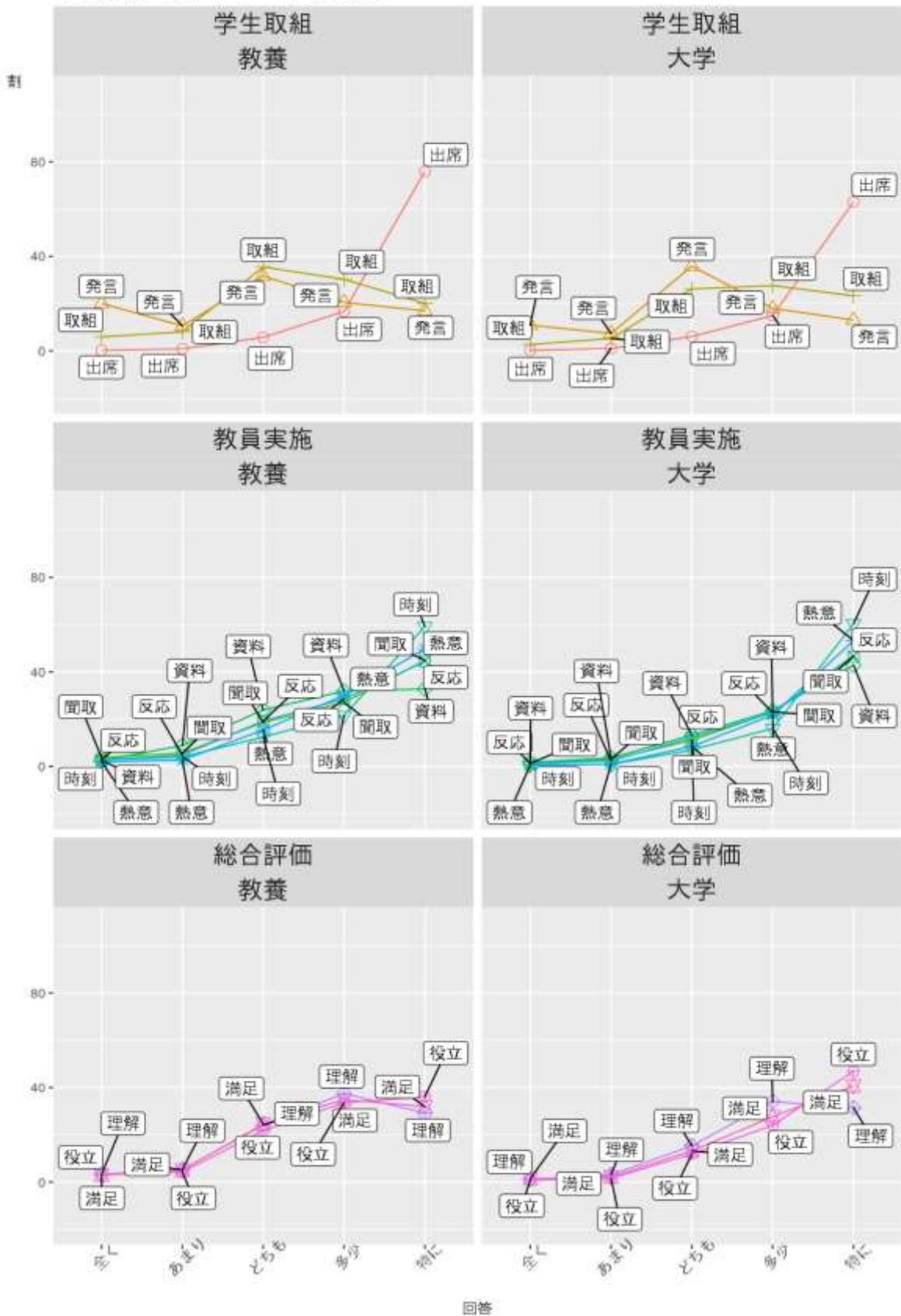
学科（センター）の結果

5	4	3	2	1
305	53	16	1	1
81	101	134	34	24
104	107	129	23	13
191	91	69	18	7
171	89	96	14	5
242	86	44	2	2
177	108	69	16	6
223	86	54	7	6
174	122	61	13	2
177	108	79	5	5

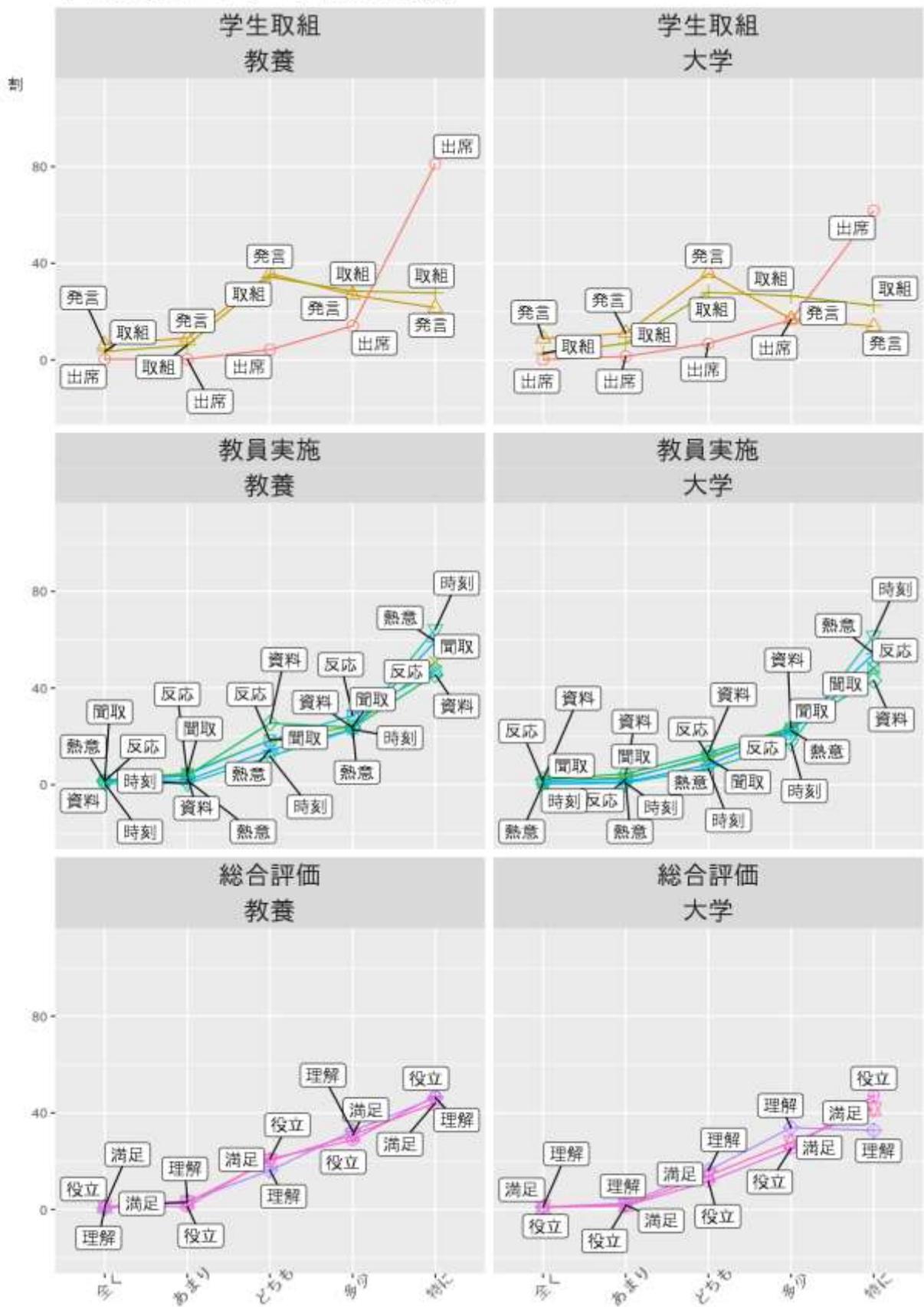
5	4	3	2	1
166	116	76	11	5

次のページに、上の各表を視覚的に比較するために、図がある。「私はこの授業によく出席した。」以外はあまり違いが見えない。センター授業によく出席している気持ちが比較的に多い。前期に「将来に役立つ」気持ちはちょっと少ないようだったが、後期になったら、教養が弱そうな「すぐ役立つ」気持ちでも大学全体とあまり変わらないような結果が見られる。

学科,大学のアンケート結果%



学科,大学のアンケート結果% 後期



教養・教職センターは大学全体と同じように、「私は授業内容について質問や発言した」という質問は「多少そう思う」か「特にそう思う」回答が少ない。受け身か「受動」(Passive)の時間が多い学校教育を受けてから大学に入ってから積極的「能動」(Active)に授業参加するのが難しいかもしれない。「能動」の授業できるために、教職員は今年のFD講演のようなイベントに参加できたらいいだろう。より多くの先生が開発養育教会の「大学FDプログラム」に参加できたら授業改善への道が開けるだろう。

(<http://www.dear.or.jp/facilitator/prg.html#4>)。

アンケート結果は教養・教職センターのFD話し合いの土台作りに役立っている。そして、アンケート実施は数値の視覚化(Data Visualization, see Edward Tufte's *Beautiful Evidence*) のトレーニング(see Hadley Wickham's *R for Data Science*)になる。

毎年、アンケート結果を視覚的に示すことを、情報デザイン(Tufte)の理念を実践する訓練になっている。教材などの資料作りに役立つ技術を身につく。フリーソフトを使って簡単なプログラム(スクリプト)を組めるとデータの構造と視覚的な表現も自由自在になる。毎年の反復開発の累積でより簡潔な図(プロット)を作れるようになる。今年は Philipp Janert(*Gnuplot In Action*)さんが利用する gnu-plot の代わりに R 言語で Hadley Wickham さんが開発している tidyverse の ggplot などのパッケージを使った。フリーソフトの emacs (と org-mode) おかげで Reproducible Research(再現可能な研究)と Literate Programming(文芸的プログラミング)目指しながら、データの構造と視覚的な表現を勉強することができた。